

平成 25 年度 会館提供ワークショップ
「地域人材・団体の実践活動に学ぶ」
重責と緊張の 20 分間

北海道 美幌町女性国内研修参加者のつどい「らんざんの会」
松島 信子（まつしま のぶこ） 80 歳

8 月 22 日、報告者は全国から 5 名。その枠の 1 人でした。各団体の発表時間は 30 分間と事前に連絡をいただいております。当然としてお話する内容を持ち時間にあわせて、調整をしまっていました。ところが当日の打ち合わせ会議で、突然 1 人の発表を 20 分間と大幅に縮小されたのでした。さて、どの部分を強調しどこを削除するか開会が迫る限られた時間の中で、的確に整理をしなければなりません。まさにパニック状態です。

そして本番、「母が贈る子ども劇場」と称する事業の発足と経過などの紹介です。それは全町民に募る基金によって運営され、全児童・生徒にプロの演劇や音楽などを贈る、まさに学校と地域が連携する事業が 39 年間にもわたって実施されているユニークな取り組みを報告しました。次に国内研修派遣事業が 7 年振りに復活をし現在第 32 回生が修了したところです。男女共同参画社会に向けての女性リーダーの育成に、その機会と教育予算を計上くださる教育委員会の取り組みがあります。限られた 20 分間で会場の皆様に内容をどれだけお伝えすることができたのか、今でも反省ばかりです。あの時の状況を思うとき、会場から拍手をいただいたことがほっとするせめてもの救いでした。私だけが知るピンチ克服のエピソードなのです。

国立女性教育会館での数々の研修は、私にとりましてまさに社会教育の指針を学び、女性活動へのエネルギーを実感する原点であります。

ご縁がありまして 4 度、研修に参加をさせていただきました。幸運な巡りあわせに心より感謝いたします。